



リハビリチーム養成のための摂食嚥下研修会 ステップⅠ

対象 コメディカル

定員 56名

プログラム

研修コード **A13-1**

開催日時 令和6年8月4日(日) ①10:00~11:00 ②11:05~12:05
③13:10~14:10 ④14:15~15:15

申込期間 令和6年5月27日(月)~7月22日(月)

① 摂食嚥下障害を学ぶための基礎知識

日本大学 歯学部 摂食嚥下機能療法学講座 准教授 **中山 洸利**

摂食嚥下機能のメカニズムと摂食嚥下機能を低下させる要因について、今回は加齢、サルコペニア、脳血管疾患、認知症について症例映像を供覧し解説します。

② 摂食嚥下障害の精査と診断、評価について

東京都リハビリテーション病院 研究担当部長 **武原 格**

摂食嚥下障害患者の診察時に確認していることを中心に解説し、その後多くのVF、VE動画を供覧します。

③ 摂食嚥下障害を多職種かつ多面的視点で支える

東京湾岸リハビリテーション病院 院長 **近藤 国嗣**

入院中に実施されていた治療と対応を在宅へシームレスに移行するためには家族指導だけでなく、医療機関と介護事業所との情報共有を含めた地域連携も重要です。摂食嚥下障害に対する多面的対応の実際と地域連携の実際について理解を深めます。

④ 嚥下リハビリテーションにおけるリスク管理

調布東山病院 リハビリテーション科 室長 **大熊 るり**

嚥下リハビリを行う際に考慮する必要のあるリスクとして、誤嚥性肺炎・窒息、脱水・栄養障害があります。それぞれのリスクと、食べるためのアプローチ方法を検討します。



リハビリチーム養成の ための摂食嚥下研修会 ステップⅡ

対象 コメディカル

定員 56名

プログラム

研修コード **A13-2**

開催日時 令和6年8月18日(日) ①10:00～11:30 ②12:30～13:30
③13:40～14:40

申込期間 令和6年8月5日(月)～8月13日(火)

① 摂食嚥下障害への栄養管理について ～栄養評価、食形態と調理の工夫～

駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科 准教授 **工藤美香**

摂食嚥下障害による低栄養状態のまま訓練を行っても効果が上がらず、再入院を余儀なくされます。嚥下調整食においては、「安全」で「簡単」そして「おいしい」ことが重要となり、調理の工夫について解説します。

② 摂食嚥下障害への理学療法について

順天堂大学大学院 医療看護学研究科 臨床病態学分野 准教授 **佐野裕子**

息切れと低酸素血症を引き起こしやすい4つの動作（上肢挙上・反復動作・息止め・前傾姿勢）について、食事を「動作」として捉え、問題点とアプローチについて検討します。

③ 在宅で行う摂食嚥下機能療法の実際

大川歯科医院 院長 **大川延也**

在宅で療養する患者さんの中にはリハビリをすれば、再び経口摂取ができる可能性を持った方がいます。介護にたずさわる家族、多職種と協働し、リハビリした症例を供覧します。



リハビリチーム養成のための摂食嚥下研修会 ステップⅢ

対象

コメディカル

定員

56名（各28名）

プログラム

研修コード **A13-3**

開催日時

令和6年9月8日(日)

① 10:00～12:00 または

② 13:00～15:00

申込期間

令和6年8月19日(月)～9月2日(月)

【実習】とろみ調整、スクリーニングテスト

武蔵野市障害者福祉センター 言語聴覚士 **田中治子**

スクリーニングテストのうち標準化された代表的な反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、フードテストの3種類の実習を行います。またとろみ剤の調整も行います。

※受講にあたっての注意

- 1 初めて受講される方は、ステップⅠから順に受講してください。
- 2 すでにステップⅠ～Ⅲを修了されている方は、リハビリチームフォローアップコースのみ受講することができます。
- 3 ステップⅠ～Ⅲを修了された方には、修了証を交付致します。
- 4 複数年にわたっての受講も可能です。(3年以内)



リハビリチーム養成のための摂食嚥下研修会 フォローアップコース

対象

コメディカル

定員

40名

※評価医養成のための摂食嚥下研修会と合同開催

プログラム

研修コード **A13-4**

開催日時 令和6年11月26日(火) ①19:00～19:30 ②19:30～20:30

申込期間 令和6年9月9日(月)～11月12日(火)

①事例検討会

東京女子医科大学八千代医療センター 耳鼻咽喉科 准教授 **三枝英人**

近年、精神神経科病棟の開放による患者の在宅療養化、ストレス社会における精神神経科患者の増加が懸念される中、嚥下障害と向精神薬との関係を考慮する機会も増えると思われま
す。代表例を提示して解説します。

②事例検討会

ごはんがたべたい歯科クリニック 院長 **齋藤貴之**

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 医歯学専攻老化制御学講座
摂食嚥下リハビリテーション学分野 講師 **山口浩平**

本事例検討会で医科歯科連携や病院から退院して在宅への移行した実際の事例について、また大学でのICT (Information and Communication Technology) の取り組みやミールラウンドICT、その他の先進的な取り組みについてのご紹介します。